

就職分科会（東京会場）

学科別集会（東京会場）

全体集会（札幌会場）

文化遺産として世界初

IS014001を取得したカンゴール遺跡群

本学の学外共同研究プロジェクトが海外で評価

アジア人材養成研究センターは二〇〇三年五月から三年間にわたり、カンボジアにおいて、学外共同研究プロジェクトである「アンコール・ワット文化遺産教育プロジェクト」を実施した。アンコール地域に急増する観光客とホテルの乱立により、ゴミ・水質汚染・

森林破壊・地盤沈下等で環境が悪化しており、この問題に取り組むアプサラ機構（アンコール地域遺跡整備機構）のカンボジア人職員・技官を実施訓練することがこのプロジェクトの目的である。実施にあたっては、財団法人日本品質保証

機構、株式会社品質保証総合研究所、株式会社国際規格研究所の協力が得られ、環境問題先進国日本の積極的役割が果たされた。

アプサラ機構は、これまでもパランスのとれた周辺開発に留意しつつアンコール遺跡群の保存・修復活動を進めてきているが、今後は環境保全の観点を一層重視することとし、そのため

自らの組織の管理運営体系としてISO14001（環境マネジメントシステム）の導入に取り組むこととした。

三年間の実施訓練の後、認証を取得し、四月十八日

に認証式が行われた。アプサラ機構が自らの発議とイニシアチブによりISO14001を機能するようになるれば、今後カンボジアの至宝は一層輝きを増し、より多くの海外観光客を魅了することになる。

エネスコの世界遺産は約六百二十八箇所あるが、文化遺産としては、世界で初めてISO14001の適用となった。

五月四日にカンボジアで開催された認証祝賀会の席上で、アプサラ機構のメンバーリット・ルンから、本学の環境保全教育貢献に対し、表彰状が授けられた。